



てがた - 大地に触れるこども園 -

01. サーキュラーエコノミーとこれからの幼児教育

アクション力が鍛錬する一方で自然環境との調和心をもつなければならぬ現代の社会の幼児教育として、モノを作る、消費することに対しての感性を育て、自然環境のコトを身近にモノとして感じることができる【サーキュラーエコノミー × 幼児教育】のことを園庭を実験する。

サーキュラーエコノミー



02. 土を使いこなす学び舎 - 建設残土を利用した学びと校舎 -

【建設残土を利用したことの園】

開発に伴って発生する建設残土を【サーキュラーエコノミー × 研究教育】に刷り入れ、自然環境に優しい校舎で、園児が安全に遊び、学ぶ過程の中で自然と触れ合えることができる環境として利用する。

土を使った校舎



土による教育



【こども園を支える土のツール】

土バケット

土ボックスタイ



300



300



300



300



300



300



跡わらぶの資源の効率的な活用や環境問題。今まで無駄だったところに価値をもたらす社会の変化を実験する。

幼少期の体験



土を使った校舎



土による教育



【こども園を支える土のツール】

土バケット

土ボックスタイ

300

300

300

300

300

300

300

跡わらぶの資源の効率的な活用や環境問題。今まで無駄だったところに価値をもたらす社会の変化を実験する。

幼少期の体験



土を使った校舎



土による教育



【こども園を支える土のツール】

土バケット

土ボックスタイ

300

300

300

300

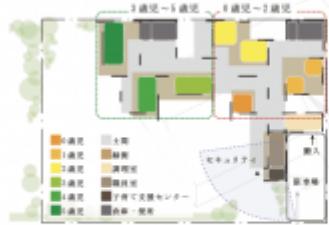
300

300

300

03. 配置計画

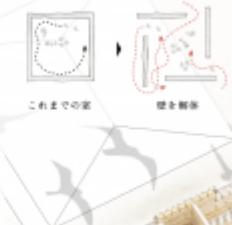
大きな配置計画としては、通路間に教室室、渡り室を設けてセキュリティと施入経路を確保し、教室は北側に3歳児～2歳児～3歳児～4歳児に分かれられた配置とした。



04. 室の解体

04. 室の解体

それぞれの教室を開4面へ交換してすることで内外が複数の室を含み出す。それに、それらの間に機能を付与することで様々なプログラムが展開可能になる。



主は子どもたちに適して開拓的で自由の高い遊びの材料となる。子どもは主を変化させたり、それに色を加え、モノを作り上げて頭の中で想像力を創造し、物事への興味を養っていく。

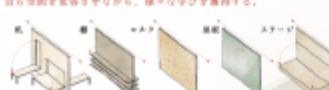
何度も使われられる土はこども園のシンボルとして世代を超えて、継承されていく。

子供たちの遊び場や手作業、授業で使った主等は画面に戻す。土は自然へと戻り、再び学びの材料となることで、次の世代へと受け継がれていく。

使う → 過去 → 自然に戻る

05. 可動壁による学びの説明

可動壁は移動可能な壁で、回転・水平移動させることで囲んだたり沿う空間を変容させながら、様々な学びを獲得する。



【可動壁の組み合わせによるプログラム】

